



平成 30 年 10 月 26 日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社
代表者名 代表取締役社長 岡本 毅
(J A S D A Q ・ コード 7746)
問合せ先 財務部長 風間 卓
電 話 04-7137-3111

業績予想の修正並びに営業外収益及び営業外費用の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 30 年 5 月 14 日に公表いたしました業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。また、平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、営業外収益及び営業外費用を計上いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結業績予想の修正

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 2,950	百万円 110	百万円 50	百万円 35	円 銭 1.54
今回予想 (B)	3,190	190	179	100	4.41
増 減 額 (B-A)	240	80	129	65	
増 減 率 (%)	8.1	72.7	258.0	185.7	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	2,924	88	42	33	1.72

修正の理由

固体光源向けフライアイレンズの新規受注並びにワールドカップ需要などによりプロジェクターメーカーによる当社製の反射鏡及びフライアイレンズの調達が進んだことから、営業利益は計画比 80 百万円増益の 190 百万円となる見込みです。経常利益は、為替差益 37 百万円が発生したことも加わり計画比 129 百万円増益の 179 百万円となる見込みです。

法人税、住民税及び事業税の増加と平成 30 年 8 月 10 日に「特別損失(固定資産除却損)の計上に関するお知らせ」で開示したガラス溶融炉 1 基の生産停止に伴う固定資産除却損 33 百万円の影響などもあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は計画比 65 百万円増加の 100 百万円となる見込みです。

2. 平成 31 年 3 月期通期連結業績予想の修正

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 6,000	百万円 200	百万円 100	百万円 70	円 銭 3.08
今回予想 (B)	6,140	280	200	110	4.84
増減額 (B-A)	140	80	100	40	
増減率 (%)	2.3	40.0	100.0	57.1	
(ご参考)前期実績 (平成 30 年 3 月期)	5,790	212	106	83	4.14

修正の理由

ワールドカップ需要への対応も終わり平成 30 年 10 月に入って反射鏡及びフライアイレンズの受注は弱含みとなっておりますが、通期では概ね計画の販売金額に達すると見込んでおります。

フリット(ガラス粉末)の販売金額は計画を下回る推移をしておりますが、多層膜蒸着技術によるガラス容器への加飾蒸着の受注の増加と平成 30 年 10 月 10 日に「海底設置型の長期環境モニタリング装置納入契約に関するお知らせ」で開示したフリーフォール型深海探査機江戸っ子 1 号の受注により、通期の売上高は計画比 140 百万円増加の 6,140 百万円となる見込みであります。これらの増収により営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも計画を上回ると予想しております。

3. 営業外収益及び営業外費用の発生

(1)営業外収益の発生

当第 2 四半期累計期間の米ドルの平均為替レートは 110.27 円、当第 2 四半期累計期間末の米ドル為替レートは 113.58 円となり、前連結会計年度末の米ドル為替レート 106.27 円よりドル高が進んだことから、輸出に伴う米ドル建て債権の決済及び四半期末時点の為替相場による評価替などで為替差益 37 百万円が発生いたしました。

(2)営業外費用の発生

平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、当社の持分法適用関連会社である JAPAN 3D DEVICES 株式会社に対する投資持分につき 26 百万円の営業外費用(持分法による投資損失)を計上いたしました。

なお、これら営業外収益及び営業外費用の発生は業績予想の変更に織込み済みです。

以上